

文 化

示す校章と、それをあし
らった旗には実に見飽き
ないものがある。

旧制高校を最後に卒業
した人も今や85歳を過
ぎ、その記憶も失われつ
つある。自治、尚志、自
由、超然、剛毅木訥とい
った理念が染め込まれた
各校校章の記録を後世に
残したいという思いか
ら、調査を続けてきた。

明治27年(1894年)
から昭和25年(1950
年)まで続いた旧制高等
学校。高等学校と名のつ
いた34校に、帝国大学入
学資格を付与された相当
校4校を含め、全国と外
地に38校あった。

◆◆◆ 文武両道など象徴

エリート養成機関たる
旧制高校は、世間に対し
超然とした「男の世界」
であり、その精神は寮歌
に謳われるとともに校章
にかたどられた。伝統を

二高の「蜂章」は由来は
明らかでないものの勤勉
を意味するとされ、その
珍しい形も美しい。「三
」の字を桜が囲んだ三高の
校章は、前身の理化学校
(舎密局)から数えると
最古の旧制高校であり、
みやびの中に歴史と伝統

に對する自負が現れてい
るように思われる。

◆◆◆ 寮歌祭の幟に異議

私が旧制高校の校章と
旗にのめり込むきっかけ
になったのは、95年に始
まり20年続いた「東京寮
歌祭」であった。今も各

歌祭の第1回から、縁あ
って各校の席を示す卓上
幟の製作を担当すること
になった。

ところができあがった
幟に卒業生から次々と批
判と非難の声が上がった。
「色が違つ」「バラ
ンスが悪い」「文字の細
部が誤つている」……。

何しろ彼らは運動部の対
抗戦でこの旗を打ち振っ
て声をからし、幟の下で
結束して母校の勝利を祈
ったのである。

ああ旧制高校校章のロマン

◇資料館やOB各地に訪ね、記録と記憶を後世に残す◇

熊谷 晃

地が開かれている寮歌祭
は、旧制高校の卒業生が
集まり、青年時代の顔に
戻って寮歌を歌い、旧交
を温める催しである。33
年生まれの私は旧制高校
の経験はないが、東京寮
筆者が東京寮歌祭のために
製作した卓上幟

である。そこで松本に
ある「旧制高等学校記念
館」、京大の「三高記念
室」、北大の「六戸コレ
クション」、兵庫県立大

の「姫路高校資料室」な
どの幟章額を中心に各種
の資料を写真に収めて回
った。後身校が大学とな
って資料室を完備してい
る私立の学校(学習院、
武蔵、甲南、成蹊、成城)
も訪ねて回った。

これに加えて、卒業生
たちが資料を見せてくれ
るなど、惜しみなく協力
してくれた。その親切に
感激したことは数知れな
い。こうして各校章の正
確な形が徐々に明らかにな
っていき、それにまつ
わる興味深いエピソード
も拾うことができた。

北国の清らかな白雪を
白銀6本の線で表現した
新潟高の六花草は、初代
校長が定規とコンパスで
デザインしたもので、そ
の正確な作図法も定めら
れている。こういう厳密
な校章がある一方、たと
えば六高(岡山)の校章
は形も多様で、その解釈
も諸説あるという。

深紅の布の上に白鷺を
描いた姫路高の校旗は、
卒業生が設立した新制白
陵高校の校旗として今も
現役である。

こうした話を図版とと

もに解説した「旧制高校
の校章と旗」(えにし書
房)を先ごろ出版した。
興味のある方にぜひ読ん
でいただきたいと思う。

◆◆◆
「間に合わず」憧れ
私は大阪に生まれ育つ
た。近くに大阪高があり、
三高生や浪速高生の姿も
見かけた。高校生が歩い
ていると、追いかけて帽
章を憧れの目で確認し
た。そしてマントの下に
奥深い真理と幅広い教養
と神秘的な世界が隠され
ていることを感じ取った
のだった。

旧制高校に間に合わな
かった私も、東京の大学
に進み、寮生活を通じて
先輩たちに残っていたバ
ル

我が国の古き良き時代
の輝かしい遺産である旧
制高校の記憶がこれらの
校章と旗を通して人々の
心に残ることを願ってい
る。(くまがい・あきら
み)元一高同窓会資料委
員

